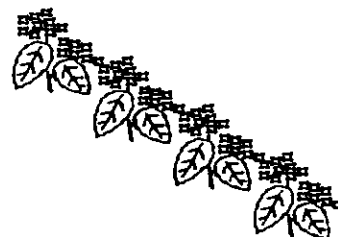


公園の花壇づくりのチェックポイント



- 1、雑草をいかに除去するかを事前に考えておく……花壇内および周辺部について。
(雑草は次から次に出てくるので、放っておくと始末におえなくなる。)
- 2、周囲にある花木・低木の整枝・剪定をする……自然保護と放任は違う。
- 3、植える草花は周囲の状況も考慮し、色・高さの統一・バランスを考える。
- 4、広い花壇はできるだけ、花を統一し、単純にしたほうがきれいで、管理もしやすい。(狭い、一般家庭の花づくりとは全く違うことを素直に認識すること。)
- 5、間違っても、家庭の庭にある草花を持ち込まないこと。宿根性の草花は増えたら、抜き捨てることに心掛ける。計画外のは雑草とみなして抜き捨てる。(捨てること、切り捨てることのできない人は花壇の花づくりに向いてない。)
- 6、病害虫に強い草花を植える。(病害虫が発生した時は、早め、早めに除去・防除する。)
- 7、乾燥に強い草花がベター。(水やりは苗の植え付け時だけですむよう工夫する。)
- 8、酸性を好む植物とアルカリ性を好む植物、肥料を好む植物と肥料を好まない植物、日当たりを好む植物と日陰を好む植物……を混植しない。(混植するときは工夫する。)
- 9、土壌消毒の必要性……土壌感染病害に弱い植物や幼苗時はとくに注意が必要。(土壌中には植物に加害する非常に多くの病原菌がいる。一回でも使用した土は注意。)
- 10、一年先を見た、計画性のある花壇づくりをする。(一年間のローテーションを組む。)
- 11、一年中、いつも、なにかの花が咲いているような花壇づくりをする。(チュウリップなど開花期の短い球根類を植え付ける場合はとくに工夫が必要。)
- 12、花苗は補植用を考えて、多少多めに準備し、片隅にまとめ植えしておく。(草花の種類によって異なるが、通常1㎡に25～30本が定植株数の標準。)
- 13、考えられない人がいるので、細心の注意が必要。



薬剤使用のガイドライン

公園は常時、不特定多数の人が利用し、幼児や小動物が花壇内に入ることがよくあります。また、植物に薬剤を使うことに反対する考え方があり、その信奉者や市民運動が市内に居住し活動しています。そこで公園花壇の薬剤使用については、私たちは次のような対処をするようにします。

- 1、花壇に必要なに応じて薬剤を使用するか否かを、あらかじめ参加グループ員の合意を得ておくこと。
 - 2、薬剤の使用については必ず技術担当に相談し、その指示に従うこと。
 - 3、無農薬栽培をする場合は、そこが病害虫の伝染、発生源にならないよう十二分の注意をすること。
- なお、会員は安易に薬剤に頼ることなく、①病害虫に強い種類、品種を選んで植える。②チッソ分の過度の施肥を避ける。③通風、日照に配慮する。④敷薬などのマルチングを励行する。⑤早期に発見し手作業で早めに処理する…など、普段から心掛けることが望ましい。